

『ONE BOOK ONE LIFE』別冊号1986年9月10日第1号発行

**ろくおん通信**

**No. 142**

発行日：2006年3月15日 発行：盲人情報文化センター 録音製作係

聴いてわかる録音図書を作るために (第9回)

## 録音図書製作の基本的な考え方

もともと目で見て読むために作られた本を読んで、聴いて理解していただけるものにする私たちの日々の作業では、一冊一冊、一頁一頁、いろいろな難問にぶつかります。

「原本通りという著作権法上の問題」を考慮しつつ、聴いてわかる本をつくるのは簡単なことでないことは、一冊でも読んだことのある方にはよくわかって頂けると思います。

マニュアルでは、漢字の同音異義語、カッコ、ルビなど問題点をいくつか上げて、その処理の仕方が例示されています。例えば刑事にデカ、創造にクリエイションなどと付けられたルビでは、初出の時にルビと漢字両方を読み、次からはどちらか一方を読むというのが基本的なやり方です。けれどこのルビが小説の台詞に出て来たら、この読み方でいいでしょうか。

一回だけならいいのですが、台詞に次々ルビのある語が出て来たら読者は楽しめなくなってしまわないでしょうか。小説は利用者にとっても、活字をよく読む私たちと同じように、筋がわかると同時に楽しめるものでなければなりません。このことは詩や和歌を読む時にもいえることです。

「原本通りに読んで、活字を読んで理解できる内容がその通りに伝わるように工夫する」これが音声訳の基本です。

皆で知恵を出し合ってよりよい録音図書がより多く出来るようがんばりましょう。

(つづく)

Q & A コーナー



**Q** Recdiaのソフトを購入し、パソコンで録音しようと思っ  
ていますが、どんなパソコンがよいのか教えてください。

**A** パソコンはWindows98se以上のものであればソフトは動きます。現在のパソコンはほとんどWindowsXPですので問題はありません。但し、Recdiaの場合、メモリーの容量により訂正作業時に違いが出てきます。メモリーが少ないと、訂正作業などでデータを書き換える時に待たされる時間が長くなります。メモリーは多ければ多いほどストレス無く動きます。512MBでも少し待たされますが、1GB (512M×2) ではほとんど待つことなく訂正作業ができます。

また、パソコンに直接録音するとどうしても雑音が入ってしまいます。NECのパソコンでは雑音を除去する機能が付いているものもあるようですが、これを防ぐにはオーディオキャプチャーを付ける必要があります。オーディオキャプチャーを付ける事でパソコン内部で発生する雑音の影響を受けずにきれいに録音することができます。

現在、最も安く購入できるパソコンの機種として、インターネット上で購入できるDELLのノートパソコンが9万円前後で購入できます。

また、オーディオキャプチャーはEDIROLのUF-4FXが19000円前後で購入できます。ただ、Recdiaで録音する場合、そのままではデジ書にはなりません。デジ編集ソフト「PRSプロ」でデータを取り込んで編集することになりますので、別に編集することが前提になります。

**Q** PRSプロで編集していますが、促音などが飛んでしまうことがありますが、どうすれば改善できますか。

**A** データを取り込む時に、録音設定で「ノイズレベル」を「標準」ではなく「低い」に設定してください。「標準」でも録音状態や音声訳者の音量（声が小さい）などに

よっては、促音などが雑音の音域に入り削除されるからです。こうしたケースでは「低い」を設定することでかなり解決します。但し、「低い」を設定した場合、周りの雑音が大き場合は、フレーズが切れなくなることがあります。その場合は、「標準」に戻してください。録音設定では、ノイズレベルはできるだけ「低い」にしておく方が無難といえます。

## 2006年度、 録音図書製作講習会のお知らせ

2006年度の「録音図書製作講習会」は、盲人情報文化センターの改築移転が2006年度当初に予定されておりますが、予定通り、4月12日（水）からスタートしますのでよろしくお願い致します。

4月12日、4月26日は盲人情報文化センターで行いますが、5月以降の会場は改築移転の為に変わる予定です。会場がどこになるかは現時点ではまだ決まっていますが、決まり次第お知らせ致します。

## 2006年度 4月のプライベート勉強会

4月の「定例プライベート勉強会」は盲人情報文化センターで予定通り行います。4月の勉強会からアシスタントとして安田智博さんが参加されます。盲人情報文化センターの移転作業の進行状況により、5月以降の対応については4月の定例勉強会の日にお知らせ致します。

尚、PRSプロを使用する4月の録音勉強会は予定通り盲人情報文化センターで行います。

**橋本勝利 先生のフォローアップ講座は秋以降になります。**

2006年度の橋本先生のフォローアップ講座は、2006年5月以降に盲人情報文化センタ

一の改築移転計画が進んでおりますので、年度当初からの講座が開けません。従いまして、具体的な日程等は確定してから『ろくおん通信』等でお知らせ致します。

尚、橋本先生は西宮市でも音訳の為の教室「音戯工房」を開いておられます。希望者はそちらへお問い合わせください。

住所 666-0016 兵庫県川西市中央町5-3-102

電話 072-756-6663

Fax 072-756-6639

定休日 毎週水曜日 日曜日・祝祭日

## 『ろくおん通信』の更新 と

## 『ONE BOOK ONE LIFE』の配布件についてのお知らせ

1、『ろくおん通信』の更新月になりましたが、2005年度の発行回数が少なかったことや、2006年度は盲人情報文化センターの改築の為の休館が定されており、さらに発行が不定期になりそうです。従いまして、2005年度の会費分で2006年度は自動的に更新させていただきます。

2. これまで『ろくおん通信』をお送りしていただきますところには当センターのボランティア向けの機関紙『ONE BOOK ONE LIFE』を同封しておりましたが、次年度からは『ろくおん通信』のみとさせていただきます。

『ONE BOOK ONE LIFE』をご希望されますグループは別途お申し込みください。

費用は、1部年間1000円です。

申込先 盲人情報文化センター 総務係

電話 06-6441-0015 (担当 名賀)

3、グループで利用されている方には別紙に『ろくおん通信』の更新についてを同封してあります。申込用紙に記入の上、ご返送（FAXでも可）ください。

以上

## カセットテープからのデジータ図書作成(その3)

### 4. デジータ編集の流れ

筆者の所属するグループで行っている PRS でのデジータ編集の全体的な流れを紹介する。

- ①新しいプロジェクトの立ち上げ(例:「hayato」、MP3、64kbps)
- ②録音(テープ転送):カセットテープから録音(デジータ用枠アナ、デジータ図書凡例を含む)
- ③編集:原本の目次に添って編集(セクション分割、結合、フレーズの分割、結合などを駆使して)
- ④[ビルドブック]→⑤CD 書込み→⑥DAISY 校正
- ⑦DAISY 校正に基づく修正録音→⑧編集(修正)
- ⑨[ビルドブック]
- ⑩[音声エクスポート]:音声ファイルをセクション毎に再構築した新しいプロジェクトを作る。(例:「hayatoA」、MP3、64kbps)
- ⑪[ビルドブック]→⑫CD 書込み(デジータ図書完成)

上記のデジータ編集の流れに添って、以下にデジータ図書作成の詳細を紹介する。

注:日本ライトハウス盲人情報文化センター(以下略してライトハウス)ではデジータプロジェクト(PRS)からのテープ化も考慮してMO録音(またはパソコン録音)からデジータ編集まで一貫してPCMを採用(ろくおん通信No. 140参照)。PCMの場合には、DAISY校正用CDを作成するために音声エクスポート(音声フォーマット変換)が不可避であるなど、デジータ編集の流れは上記と若干異なってくる。

図 [録音音声フォーマット設定] 画面

### 5. 新しいプロジェクトの立ち上げ

これからデジータ編集を行う新しいデジータプロジェクトを立ち上げる。

- (1)デスクトップの PRS アイコンをダブルクリックする。
- (2)[初期動作選択]画面では[作る]を選択する。
- (3)[音声フォーマット設定]画面で、音声フォーマット(例:「MP3(64kbps、Mono)」)を選択する。

デフォルトでは MP3(32 kbps、Mono)になっているが、MP3(64kbps、Mono)を選択することで CD(700MB)に22時間(90分テープ約14巻)の録音ができ、ほとんどの単行本をカバーでき、高音質なデジータ図書を実現できる。MyStudioPCの場合は、選択肢としてMP3(64kbps、Mono)が無いので、MP3(48kbps、Mono)を選択するのが適当と思われる。

本シリーズでは MP3(64kbps、Mono)を選択した場合の例を紹介するが、それぞれの図書館のパソコン環境などを考慮して決めるとよい。

- (4)[プロジェクトフォルダ名の入力]画面が表示されるので、

- ①[ファイル名]欄にプロジェクト名を入力する。(例:hayato)

注:プロジェクト名は半角英数字または半角アンダーバーを使用して63文字以内で指定。

- ②[保存する場所]欄は3.3「新規作成時に開くフォルダ」で指定したドライブ(例:Eドライブ)またはフォルダであることを確認したら[保存]ボタンをクリックする。

参考:リストビューには保存場所(例:Eドライブ)に保存されているフォルダ等が表示されている。

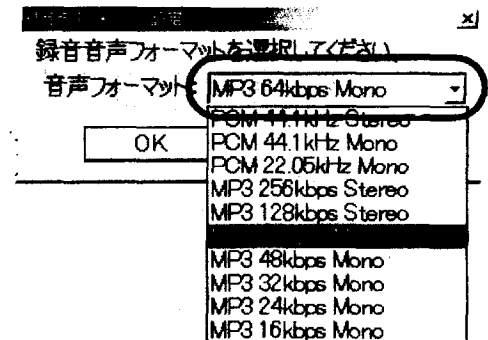
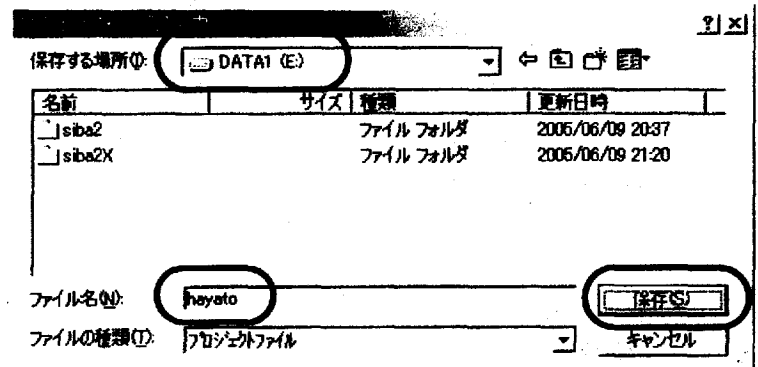


図 [プロジェクトフォルダ名の入力]画面



(5) [書誌情報設定]画面が表示されるので、それぞれの項目を入力し[OK]ボタンをクリックしたら、新しいプロジェクトの立ち上げ完了。

参考:[識別名]欄には図書館での整理番号などを入力。[言語]欄は日本語、[文字コードセット]欄はデフォルトの Shift\_JIS、[ジャンルとスキーム]欄はブランクのままでもよい。

注:[書誌情報設定]は後からいつでも入力できる。

## 6. 録音(テープ転送)

### 6.1 録音用デバイス選択

PRS 編集画面の録音音量スライダーでカセットデッキからのライン入力をコントロールできるように設定する。

[コントロール]メニューから[録音ボリュームコントロールの選択]→[ライン]を選択する。

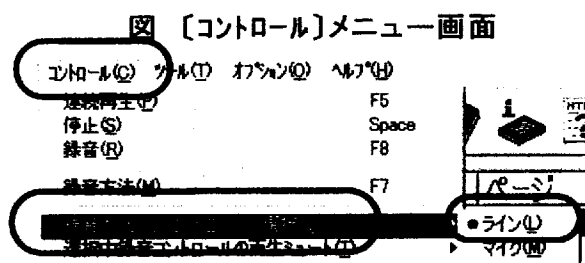


図 [書誌情報設定] 画面

書誌情報を設定してください。	
タイトル:	LONESOME 単人
著者:	郷草人
ISBN:	4-344-00604-6
識別名:	407
発行者:	西宮市視覚障害者図書館
言語:	日本語
朗読者:	藤堂麻須子
文字コードセット:	Shift_JIS
ジャンルとスキーム:	
編集者:	鳥生次郎
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

図 ライン入力の録音音量スライダー

ライン入力	
音声出力	
セクション	1 / 1
フレーズ	0 / 0
STOP	
録音音声フォーマット	MP3 64kbps Mono
録音済みフォーマット	

### 6.2 録音設定

フレーズの生成条件ほかの録音条件を設定する。

[オプション]メニューから[録音設定]画面を開く。

①[フレーズポーズ時間]欄はとりあえず、初期値「0.4秒」に設定し、録音の結果を見て修正。

設定したポーズ時間より長い無音状態が続いた後で音が来ると、そこから新しいフレーズが立ち上がる。ポーズ時間が短いほどフレーズは切れやすくなる。初期値「0.4秒」での録音結果を見て、片面45分当りフレーズ500~700個を目安に修正する。

②[ノイズレベル]欄は初期値「標準」でよい。

バックグラウンドノイズが大きく、フレーズが切れない場合には「高い」に設定する。

③[セクションポーズ時間]欄は初期値「なし」でよい。

④[音声ファイル分割]欄は初期値「あり」でよい。

⑤[自動録音停止]欄は「20秒」に設定する。

これで、テープが残り20秒経過すると、自動的に録音を終了する。

⑥[録音速度]欄はテープの再生速度に合わせて「1倍速」または「2倍速」を選択する。

⑦[DC オフセット]欄は初期値「なし」でよい。

⑧[MP3音質]欄は「標準」でよい。

注:「標準」のほかに「音質優先」と「速度優先」の選択肢がある。

⑨[新規作成時に開くフォルダ]欄はすでに3.3章において設定済み。

図 [録音設定] 画面

録音の設定をしてください。	
フレーズ検知	
フレーズポーズ時間:	0.4秒
ノイズレベル:	標準(-28dB)
セクション検知	
セクションポーズ時間:	なし
音声ファイル分割:	あり
オプション	
自動録音停止:	20秒
録音速度:	2倍速
DCオフセットカット:	なし
MP3音質:	標準
新規作成時に開くフォルダ	[E:\ ...]
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

## カセットテープからのデジータ書作成(その4)

### 6.3 録音実施

図 [録音方法]ボタン

テープをカセットデッキに装着したら音の先頭を出し、カウンターを「0.00」(0秒)にリセットすることから始める。

①[録音方法]ボタンが「パンチイン」表示の場合はボタンをクリックして「上書き」表示にする。



#### 【1A面録音】

②録音設定で選択した録音速度(例:2倍速)でテープを再生した状態で、[録音]ボタンを第1回目クリックする。

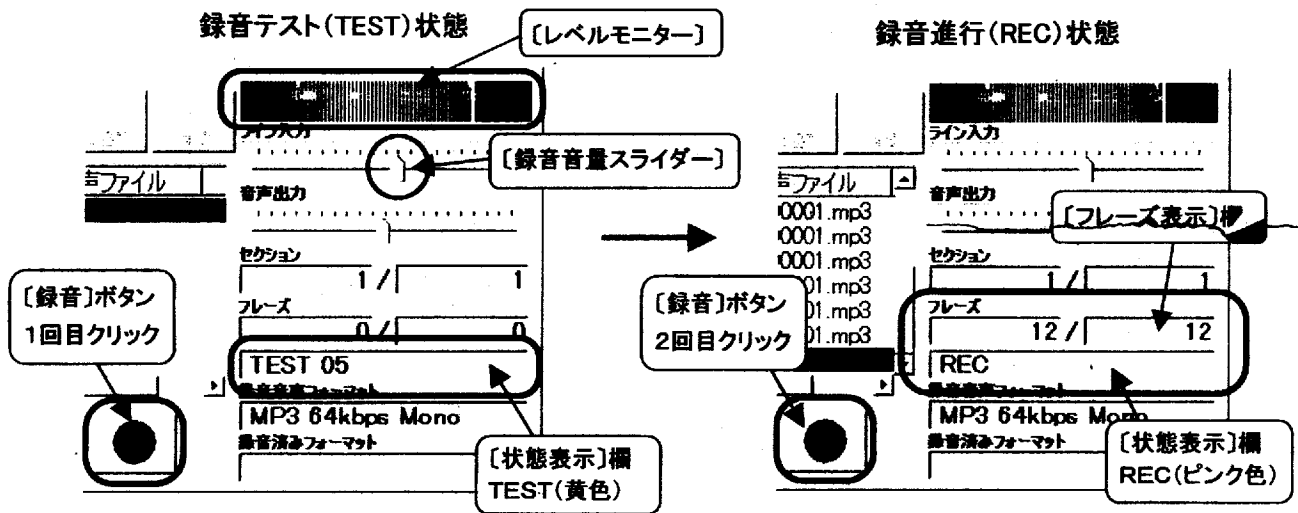
[状態表示]欄がSTOP(青色)からTEST(黄色)に変化する。

③ライン入力の[録音音量スライダー]を左右にドラッグして、レベルのピーク値(残存する白い縦線)が「-10db」近傍となるように調節する。

注:レベル調整が終わっても、[停止]ボタンをクリックしないこと。

④録音レベルの調節ができた状態で、テープカウンターが「-0.10」(-10秒)程度となるまで巻き戻し、[録音]ボタンを第2回目クリックした後、テープを再生すると本番録音スタート。

[状態表示]欄が PAUSE(ピンク色)に変化し、さらに最初の音を検知した時点から REC(ピンク色)に変わると同時に、[フレーズ表示]欄にフレーズの生成状況(例:12個)が逐次表示される。



⑤テープ終端まできたら、[停止]ボタンをクリックして1A面の録音終了。

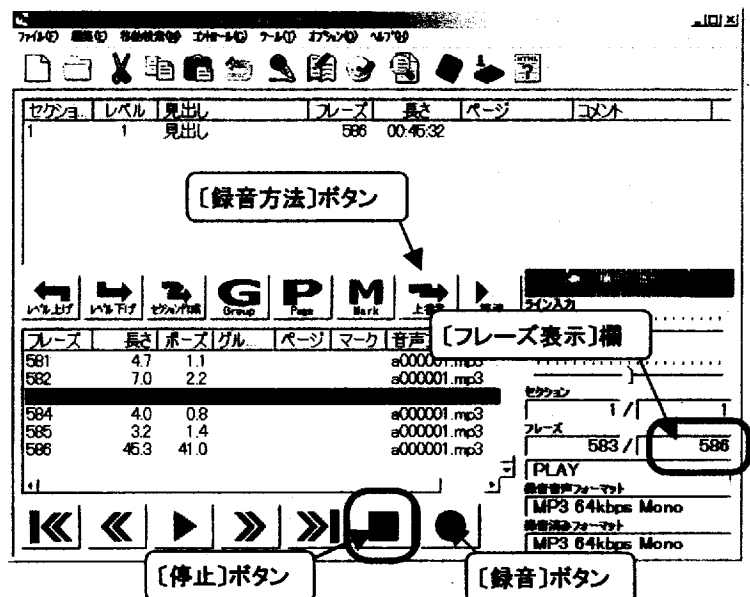
注:録音設定で設定した[自動録音停止時間](例:20秒)を経過すれば、自動的に録音は停止する。

#### 【録音後のチェック】

⑥フレーズをクリックして選択し、<↑>、<↓>キーを押して上下に移動してフレーズを再生し、正常に録音されていることを確認する。

⑦1面あたりのフレーズの生成数が適正かどうかを確認する。(例:586個、500~700個の範囲内にあり適正)

図 編集画面(1A面録音終了後)



**【テープナンバー入力】**

テープの巻数が多い場合には、混乱を避けるためテープナンバーを入力しておく。

⑧第1セクション欄をクリックして選択した後、<Enter>キーを押して[セクションのプロパティ]画面を表示する。

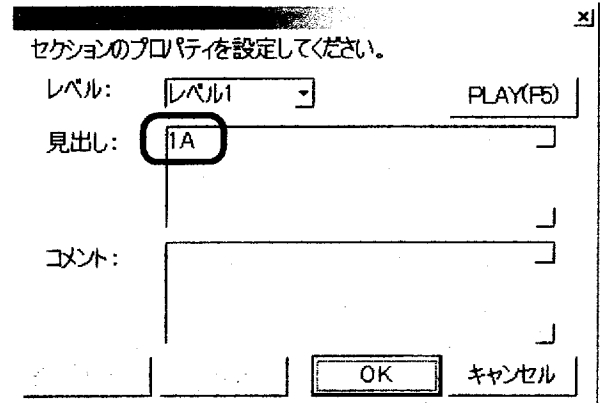
⑨[レベル]欄が選択されているので、<Tab>キーを押し、欄を一つ進めて[見出し]欄を選択し、テープナンバー(例:1A)を入力する。

**【録音の繰返し】**

⑩1A面の録音・チェックが終了したら、次の新しいブランクセクションを選択して1B面を録音する。

1B面以降最終面までの全巻に対し、上記の②～⑨の操作を繰返し実施して録音を完了する。また、編集の終盤で梓アナや「デイジー図書凡例」などを音訳者に依頼し、同様に録音して編集する。

図 [セクションのプロパティ]画面



**7. 編集**

編集とは録音が完了した編集画面の第1セクションから、音訳、原本の順序に従ってセクションを分割、見出しを入力し、フレーズデータを整理することであるといえる。

すなわち、

**①【新しいセクションの分割】**

新しいセクションの先頭となるフレーズを選択してセクションを分割する。

**②【セクションデータの入力】**

見出しを入力し階層レベルを設定する。

**③【フレーズデータの整理とセクションの結合】**

フレーズの分割、結合、削除、ページチェック、グループチェック等を行ってフレーズを整理し、テープのつなぎ目ではセクションを結合する。

順次、フレーズの整理を進め、次の見出し(セクションの先頭フレーズ)に到達したら

①に戻り、上記①→②→③を繰返して編集画面を完成させる(右図参照)。

ここでの録音順序は従来から行ってきた以下のテープ録音の順序とした。

- (1)書名、(2)原本奥付、(3)著者紹介、
- (4)原本凡例、(5)デイジー図書凡例、
- (6)目次、(7)献辞、まえがき、
- (8)本文
- (9)索引、(10)終りの梓

注:ライトハウスでは2005年4月からデイジー図書を先に製作する体制に移行し、これに

ともない録音順序も上記と大幅に異なっている(ろくおん通信No. 139参照)。しかし、見出し(セクション)の順序はそれぞれの図書館で採用している録音順序に従って編集するとよい。

(つづく)

図 録音完了後の編集画面

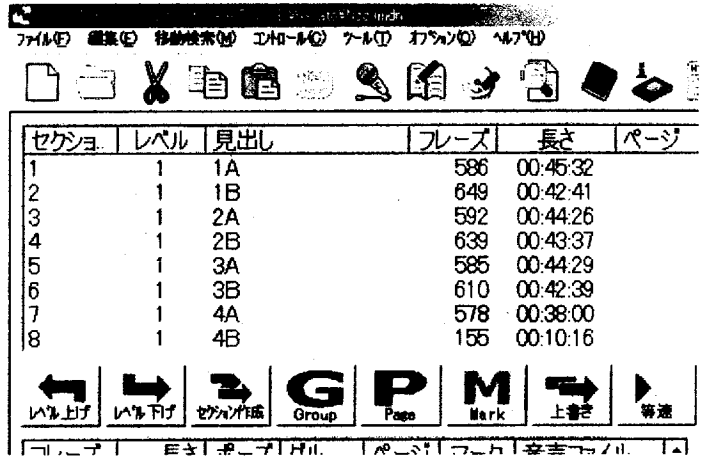


図 編集完了後の編集画面



(テープライブラリーにしのみや 鳥生次郎)